

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

| | |
|--|--|
| 名称：太陽の子二俣川駅保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：野口 美保子 | 定員（利用人数）： 75名 |
| 所在地：〒241-0821 横浜市旭区二俣川2丁目50番14 コブレ二俣川5階 | |
| TEL：045-360-0351 | ホームページ：https://www.kidslife-nursery.com/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日 2018年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社 | |
| 職員数 | 常勤職員： 21名 非常勤職員 3名 |
| 専門職員 | （専門職の名称） 名 栄養士 2名 |
| | 保育士 18名 調理師 1名 |
| | 看護師 1名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数） |
| | （設備等） |
| | 乳児室・ほふく室2、保育室4、調理室1、事務室兼医務室1 |
| | 調乳室、沐浴室、乳幼児用トイレ3カ所、相談室、バリアフリートイレ、園庭225㎡ |

③ 理念・基本方針

保育理念「つながり保育」

「心が動く体験」と「豊かな対話」で、つながりを創造する

1. 子どもとつながる：「主人公」になる
2. 保護者とつながる：「共鳴」する
3. 地域とつながる：「市民」になる
4. スタッフ同士つながる：「チーム」になる

保育方針

のびのび すくすく にこにこ

- ・安心できる人間関係の中で、多様性を尊重します
- ・心の動く体験と深い対話で学びのプロセスを大切にします
- ・子どもの「やりたい」から始まる保育環境をデザインします
- ・学び続け、専門性を発揮するチーム保育を行います

保育目標

- ・自信をもって個性を発揮することも
- ・たくさんの“好き”を見つけチャレンジすることも
- ・“違う”を楽しみ友達とつながることも

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・0歳児～5歳児を対象とした月2回の英語活動「ふぁんばりんタイム」。各クラス担任主導の英語に触れる活動。
- ・おそうじチャレンジとしてプロから掃除の仕方を教えてもらったり、掃除について考える時間を作る。4、5歳児は毎日のお掃除を楽しみながら経験する。

- ・絵本巡回としゃかんでテーマ、年齢に沿った絵本を巡回。より多くの絵本との出会いの場を作る。
- ・毎週絵本の貸出しを行い家庭で絵本に触れられる機会を作る。
- ・絵本給食で絵本に登場する食べ物や、絵本にちなんだ内容の給食を提供。
- ・行事食、郷土料理献立、世界の料理献立などの特別献立を取り入れ、様々な文化に触れる。
- ・クッキングで自分で作ること、調理に携わる事で食べ物や作ってくれる人達への感謝を知る。
- ・乳児クラスから実際に食材に触れたり、香りを嗅いだりして五感で感じる食育。
- ・園庭でプランターを使用して栽培活動、収穫体験を行う。
- ・地域ケアプラザとの行事を通しての交流、行事を通しての近隣店舗との交流、近隣降園の清掃活動、小中学生ボランティアの受け入れなどの地域活動。
- ・地域家庭向けの絵本貸出、身体測定、育児相談の実施。
- ・月1回絵本コーナーにて行われるお話し会。（パネルシアター・手袋シアター・紙芝居など）
- ・自園で必要とされていることに応じた園内研修を独自に作成し行っている。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2022年5月31日（契約日） ～ 2022年12月23日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 0回（ 年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

子どもの発達や興味に沿った遊びを提供している

園全体が木のぬくもりのある温かい雰囲気を持ち、保育室は手作りされた多くの玩具がコーナーに用意されている。子どもの発達段階や興味を把握しながら、保育士が中心となりその時々が必要と思われる玩具が手作りされている。幼児クラスでは、製作活動が自由に出来るように画用紙や折り紙、ダンボールを手の届く場所に置きイメージしたものが直ぐ表現出来る環境を整えている。わらべ歌・リズム遊び・おはなし会・英語に親しむ活動やおそうじチャレンジなどの体験活動が豊かに提供され、子ども達は楽しみながら好きなことが見つけられるような取り組みが行われている。

子どもの人権に配慮した保育を実施している

運営法人は、マリトリートメント撲滅を会社目標に掲げ、年2回、園内研修をを実施し、全職員が受講し、セルフチェックすることを義務づけている。園では、子どもにとって良い関わり方や保育の仕方について研修を重ねながら保育士の意識改革を行っている。公開保育を行い、様々な職員の視点や意見を取り入れながら、保育実践・評価反省を行い保育の質の向上に務めている。

コロナ禍での職員間のコミュニケーションづくりに工夫をしている

職員間のコミュニケーションがコロナ禍において希薄になっていると感じ、更衣室に「幸福ワーク 楽しかったこと共有」と題した掲示場所を作り、それぞれが楽しかったことなどをコメントできる場を提供した。会話が少なくなっている中でも掲示板では文字などで思いをやり取りすることができており、気持ちの共有一体感が生まれている。

今後期待される点

災害時対応の検討が求められる

複合施設の5階という立地条件を考慮し、幼児クラスの子ども達は、災害時の避難にも対応出来るように日々上履きを履いて活動している。しかし0歳児室から5歳児室までの空間は広く、非常時の連絡が行き届かないことも懸念される。災害時の園内連絡体制と避難時に近隣住民からの支援が届くような取り組みを期待したい。

中長期計画においては目標の数値化を書面化することも必要とされる

中・長期計画は、毎年本社にて作成され、本社で行われる園長会にて説明された内容は職員会議や引継ぎ表を用いたり、掲示したりしながら職員全員に周知できるようにしている。園では何年後にどのような園になってほしいかというビジョンを考え、計画は年単位で園長、主任で見直しを行っているが、目標の数値化は口頭のみであるため、書面化することも必要とされる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審するにあたり、改めてマネジメント、日々の保育への取り組み、保護者支援、地域活動について振り返りを行うことで、今まで行ってきた運営方法について見直し、自園の良い箇所や課題とすべき面を再確認する場となりました。長い時間をかけて保育者だけでなく、栄養士、看護師他、園のスタッフ全員で主体的保育について考え作ってきた環境や、保護者への行事の在り方を都度、言葉で伝えている面など、保護者アンケートの結果と共に評価していただいたことを今後の保育の展開、質向上のためにも活かしていきたいと思えます。

また、課題として挙げられたことについては具体的なアドバイスをいただきました。事業計画、中長期的な計画について本社の目指すビジョンや目標をもとに園長・主任を中心としてスタッフとも聞き取りや会議で都度話し合ってきた内容を具体的な数値として書面に起こすことなど、アドバイスをもとに実践していきたいと思えます。

今回、評価していただいた内容を真摯に受け止め、園内での共有、意識改革に努め、より良い保育環境の中で子どもも保護者も安心して預けていただける園づくりを行ってまいりたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり